

北相中学校だより



合い言葉は 「挑戦・貢献・創造・誇り」

令和6年度

No. 4

6月28日発行

6月が終わります

校長 望月はる美

早いもので2024年も折り返し点を迎えようとしています。学校生活においても4月8日の始業式からまもなく3ヶ月、1学期の終業式や夏休みの足音が聞こえてきそうです。

6月1日(土)、3年生が修学旅行からたくさんの思い出を抱えて無事に戻ってきました。2泊3日の広島・京都での様子は、学校ホームページの学校ブログに掲載されています。1, 2年生の校外学習同様に笑顔いっぱいの写真が数多く掲載されていますので、ぜひご覧ください。

2泊3日の中でも特に思い出深いことをご紹介します。それは広島の元安川親水テラス付近で行った合唱です。平和記念公園の一番端、原爆ドームを対岸に臨む元安川の岸辺で、3年生一人一人が心を込めて「ヒロシマの有る国で」(作詞・作曲 山本さとし)という曲を合唱しました。この曲は1983年、今から40年ほど前に作られた曲だそうです。古さを感じさせない曲です。繰り返される歌詞に、「**ヒロシマの有る国で しなければならぬことは ともるいくさの火種を 消すことだろう**」とあります。世界のあちこちで起こっている「いくさ」の様子が今日もニュースで流れています。被爆という出来事の悲惨さを押し出すのではなく、今、ここに生きている私たちは何をしなければならないのか、ということ強く問われていると感じました。歌詞を検索してお読みいただけたらと思います。

お借りしたピアノは被爆ピアノ。原子爆弾が投下された広島で奇跡的に焼け残ったピアノです。3年生に用意



されたのは、爆心地より2.6kmの民家で元の持ち主とともに被爆した「カズコのピアノ」と呼ばれているピアノだそうです。ピアノには被爆当時の傷がいくつも残っていましたが、原爆を乗り越えたピアノの伴奏で合唱をしたという思い出は、深く心に残っていくと思います。3年生が合唱を終えると、周りで聴いてく



ださっていた多くの観光客から拍手をいただきました。3年生のうれしそうな恥ずかしそうな、そして満足そうな表情が印象的でした。

修学旅行のしおりの校長ページの中に「世界遺産のある広島、京都の地を訪れて感じたこと、考えたことを5・7・5のリズムに乗せて表現してこよう！」と書きました。突然のお願いにもかかわらず、短歌を含めて多くの作品が集まりました。ただいま各自で推敲中です。いつかご紹介できればと思います。

6月あれこれ

6日(木) 北相中学校区小中一貫の日(公開授業)

5時間目、桂北小・千木良小の先生方が授業参観に来校しました。授業後には授業内容の検討や小中一貫教育に関する協議を行いました。これからも3校で連携を取りながら教育活動を進めてまいります。



11日(火) 上級学校学習会

4校の高等学校の先生方にお越しいただいて学習会を行いました。3年生からは、「初めて高校の説明を高校の先生から直接聞きましたが、実際に足を運んで見てみたいという気持ちが強くなりました。」「それぞれの学校色々な特色があり、実際に行ってみたいと感じました。自分がどのような三年間を送りたいかをよく考え後悔のないような選択をしたいです。」等の声があがりました。



北相中学校 7月の主な予定 (変更になることもあります)					
3日	水	1年：防災学習会	18日	木	給食終了
4日	木	全校集会	19日	金	学年集会・大掃除
		2年：薬物乱用防止教室			1学期終業式
9~12日		全学年：三者面談	2学期の始業式は8月26日(月)です		